

山田みやこの活動報告

令和4年5月19日(木)

令和4年度「特別講演会&クロストークセッション」

主催 社会福祉法人 栃木県社会福祉協議会

講師① 宮本 みち子氏(放送大学/千葉大学名誉教授)

社会の支え手をどう支えるかー家庭・女性・子ども・若者にフォーカスしてー

“失われた20年”で経済格差は拡大し、中流生活を営むことができない人々が増加した。経済の悪化と孤立という現象は密接に絡まっている。さらに新型コロナウイルスによって様々な事情を抱えて不安定な生活状態にあった人々が真っ先に影響を被ったと言える。女性や子どもや若者に表れている。

〈現状〉

- 7人に1人の子どもが相対的貧困状態
- 子どもの貧困は女性の貧困とセット
- ふたり親世帯の貧困も軽視できない
- 仕事と家庭の両立から排除される女性の増加
- 就職氷河期世代の貧困と孤立化
- 親に頼ることのできない若者

〈支援策として〉

- よりそいホットライン
相談先がない、孤立⇒相談窓口とつなぐ橋
人に制度を合わせなくては効果は出ない
- 支え手を支える政策と共生保障
支える側を支え直す
支えられる側の参加機会を広げ、社会につなげる

講師② 荻津 守氏(宇都宮乳児院 院長)

「つながりサポート女性支援事業と県内の状況について」

- コロナ禍の影響により若者や学生等の自殺増加
宇都宮市つながりサポート女性支援事業を開始し「あなたは一人ではない」と伝え、周りに気になる方がいたら是非声をかけて欲しいと周知活動を行った。
「フードバンクうつのみや」とともに食料品配布と相談会の取り組みを行う。他機関が連携したワンストップ相談、顔の見える連携、継続的な支援活動。済生会宇都宮病院内の協力で院内の職員から食料品の寄付。「生理の貧困」問題を取り上げ、周知する取り組みと身近な生活圏域で相談できる場所、生理用品を受け取れる場所を設置した。

- 相談窓口を設置し、専門職が対応
- 女性の抱える課題解決・解消に向けて関係機関につなげる
- 地域力を向上し、地域内問題に対応できるネットワーク化を図り、つながりをサポートする。

※本気の大人と出会い、相談できる体験をして欲しいという思いで活動している。